

大雪山系縦走報告

4 日目 (8 月 30 日(日))

M3 只左一也

2009 年 8 月 27 日(木)ー9 月 6 日(日)

メンバー：M3 只左一也、M3 大橋雄一

1 日目：羽田空港→旭川空港→(バス)→層雲峡
→(ロープウェイ・リフト)→七合目→
黒岳→黒岳石室（小屋泊）

2 日目：荒天のため沈黙（小屋泊）

3 日目：黒岳石室→間宮岳→旭岳→間宮岳
→北海岳→白雲岳避難小屋（小屋泊）

4 日目：白雲岳避難小屋→忠別岳→五色岳→
沼ノ原大沼（幕営）

5 日目：沼ノ原→五色岳→化雲岳→
ヒサゴ沼避難小屋（小屋泊）

6 日目：ヒサゴ沼避難小屋→トムラウシ岳→
南沼キャンプ場（幕営）

7 日目：南沼キャンプ場→オプタテシケ山→
美瑛富士避難小屋（小屋泊）

8 日目：避難小屋→美瑛富士→美瑛岳→
十勝岳→上ホロ避難小屋（小屋泊）

9 日目：上ホロ避難小屋→富良野岳→
富良野岳分岐→(原始ヶ原)→五反沼
→(原始ヶ原)→富良野岳分岐→
原始ヶ原登山口→(車道)→布礼別→
(バス)→富良野駅→(電車)→
上富良野駅→日の出キャンプ場
(幕営)

10 日目：十勝岳温泉往復（幕営）

11 日目：上富良野→旭川空港→羽田空港(解散)

起床	04:00
白雲岳避難小屋	07:50 発
高根ヶ原分岐	09:20 着/発
忠別沼	11:20 着/発
忠別岳	12:00 着 12:30 発
避難小屋分岐	13:10 着/発
五色岳	13:45 着 14:00 発
五色の水場	16:00 着 16:30 発
大沼（沼ノ原）	17:30 着（幕営）

(歩行時間：約 8 時間)

朝起きてみると、外はガスがかかっていた。前夜、小屋の人たちと熊の話をして、ヒグマに対するひどい恐怖心は和らいだものの、やはりばったり遭遇すると怖いので、明るくなってから様子を見て出発することにした。最初の計画では、この日は沼ノ原の大沼湖畔でテントを張る計画だったが、テントサイトに熊が出るようなので、途中の忠別岳避難小屋に泊まろうか、と少し気持ちが後ろ向きになっていた。小屋の下の方の雪渓にまたヒグマの子供が現れてくれないかと、少し期待もあって、食事を済ませてからもぐずぐずだらだらしていた。

次第にガスが晴れて、遠くが少しずつ見えるようになってきた。そして、高根ヶ原の向こうには、雲の上にトムラウシ山の頂が顔をのぞかせた。ここでようやく私たちも重い腰を上げて、出発することにした。

正面の広大な高根ヶ原に向かって、緩やかな坂を下って行く。ところどころ、ナナカマドが少し色づいている。左手には、形のよい石狩岳がくっきり見える。

高根ヶ原は平坦な台地で、東側が切れ落ちている。進むにつれて正面の空を覆っていた雲が次第に消えて、王冠のようなトムラウシ山が正面遠くに望まれるようになった。広大なため遠くのものが見え、平坦で歩きやすいのだが、なかなかトムラウシ山が近付いてこない。景色を楽しみながらゆっくり歩いたこともあって、三笠新道の分岐（高根ヶ原分岐）まで 1 時間半もかかってしまった。この頃までに、この日の泊まりは忠別岳避難小屋でいいや、という怠け心が 2 人を支配していた。



小屋の西側の雪渓にもクマが出るらしい。手前の開けたところはテン場。



8時前、ようやく小屋を出発。



右の台地が高根ヶ原。その上にかかる雲の上に、トムラウシ山頂が顔をのぞかせる。



なだらかな道を下る。



トムラウシ山頂。



遠くに見えるのは、石狩岳（左）とニペソツ山（右）。



平らな高根ヶ原に行く。



高根ヶ原分岐。ここから左手の斜面を下ると三笠新道
経由で高原温泉に出る。



行く手を覆っていた雲が消えた。トムラウシ山に向か
って高根ヶ原を進む。



北側から見ると王冠のようなトムラウシ山。

三笠新道は原生林の中に池の点在する素晴らしいコースらしいが、ヒグマが頻繁に出没するため現在は通行止になっている。左手の崖の下は原始的な森の中に沼の点在する素晴らしい景色だった。ヒグマが住みたくなるのも分かる、と勝手に納得して、上からこの景色を見下ろしながら、のんびり進んでいると、後からものすごい勢いで追いかけてきた単独行のおばさんに追い越された。札幌の人だそうである。この先も、単独の人に結構出会った。ヒグマの恐怖におびえながら北海道にやってきた私たちは、最初はびっくりしたが、地元の人たちはそれほど気にはしていないようである。これだけ登山者がいて、単独行の人もたくさんいて、大雪ではヒグマと登山者の事故がないことから考えても、鈴を鳴らして歩いていれば、熊が気づいて避けてくれるようである。私たちもこの先、ヒグマとのニアミスは結構たくさんあったが、姿を拝むことは一度もなかった。

しばらくすると緩やかな登りになる。向こうからやってきた年配の男性1人と若い女性2人の3人パーティーとすれ違って、情報交換。ここでとんでもない話を聞いてしまう。

この人たちは私たちが宿泊を考えていた忠別山避難小屋に泊まったそうだが、幽霊が出るというのだ。それが女の幽霊で、男性に悪さをするという。首を絞めたり、背なかをなでたり、外から戸をどんどん叩いたり……。この男性も前の晩見たという。他にもそういう体験をした人が結構いるという。幽霊が苦手な私の背筋は凍ってしまった。2人の女性は、「背中をな

でてくるんだったらいいじゃないですか。」と言って笑っていたが・・・。

ここで、やはり最初の計画通り沼ノ原まで行ってテントを張ることにすることに決めた。正体不明の女の幽霊に夜中に首を絞められるよりもヒグマの方がましである。

というわけで、先を急ぐことにした。(東京に帰ってインターネットなどで調べてみたが、そのような情報は見つからなかった。彼らに担がれたのだろうか・・・?)

やがてエゾサンショウウオの住むという大きな忠別沼を過ぎ、藪気味の林の中の道となる。少し開けたところに出て、後の旭岳や白雲岳を振り返りながら進んでいた時、「獣臭い」といったらびつたりの、ぷ〜んと強烈な臭いがした。道の脇に大きなクマの足跡がついている。ちょっと先に、ホカホカの大きなクマの糞がゴロゴロ転がっている。緊張が走り、周囲を見回すが、割と開けたところだったがクマの姿は見当たらなかった。

さらにだらだら登って行くと、ようやく忠別岳山頂に到着。ちょうど正午だった。



高根ヶ原(右の台地)の左側は切れ落ちていて、その下には池の点在する原生林が広がる。ヒグマの多いところで、目撃情報が多いので期待していたが、私たちは見ることはできなかった。



青く輝く沼が点在。別天地。



谷を一つ挟んで東側の東大雪の山々が連なる。中央は石狩岳。



高根ヶ原は広い。近くに見えても、なかなか辿りつかない。中央の盛り上がりが忠別岳。



西側の眺め。後旭岳に隠れていた旭岳（左端）が姿を現した。



ようやく 忠別岳（右側が切れ落ちている中央やや左のピーク）が近付いてきた。



緩やかに登って行く。



エゾサンショウウオの住む忠別沼。



後ろを振り返る。



きれいなハイマツの林。



ときどき背丈を超える藪気味の林の中を進む。クマが気になる。



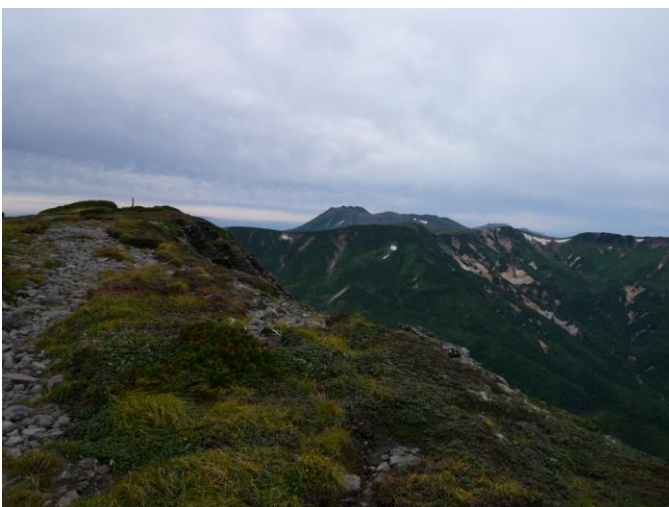
獣臭いにおいがすると思ったら、登山道脇に大きな新しいヒグマの糞が。ニアミスだったようで、緊張が走る。



今度は右側が切れ落ちている際をだらだら登って行く。



旭岳（左端）と白雲岳（右端）を振り返る。この日の出発地点の白雲岳避難小屋（白雲岳のふもと）はるか遠くになってしまった。



忠別岳山頂（左端）まであとわずか。



正午ちょうど、忠別岳山頂に到着。

五色岳の向こうにはトムラウシ山が、そしてはるか南には、日高の山々が雲の上に浮かんでいた。この先の行程を考えるとゆっくりしていられないのだが、眺めの素晴らしさに、ついのもろいになってしまう。軽く食事をしていると、西側の崖から「ピチッ!」「ピチッ!」と、小さいながらも鋭い声が聞こえた。崖を覗きこむと、小さな茶色の動物が動いた。ナキウサギだ！

そもそもナキウサギが見たくてこの山行を企画したほど、どうしてもナキウサギが見たかった私は、感激だった。写真を撮ろうと、カメラを取り出すと、隠れてしまった。それでも、あちこちから声が聞こえるので、結構たくさんいるようである。もう一度見ようと、再び姿を現してくれることを期待してじっと待っていたが、残念ながら隠れて出てこなかった。この先沼ノ原まで地図で4時間半の行程でありゆっくりしているわけにも行かないので、出発することにした。

道はハイマツの中を 250mほど下る。「例の」忠別岳避難小屋が近づいてくる。例の話聞いたせいか、薄気味悪い感じがした。縦走路から少し離れいているのを幸いに、小屋への分岐でも休まずに先を急ぐ。分岐からは藪気味の林の中の登りとなり、少し苦しくなったが、ピッチを上げて、1時間の予定を30分ほどで登り、五色岳に到着。



五色岳～化雲岳の稜線の向こうにはトムラウシ山。



西側の崖にナキウサギがたくさん住んでいる。遠くは旭岳。



東の眺め。中央はニペソツ山。



はるか南には、雲の上に日高の山々が。日高にあこがれている私は感激。



忠別山を出発。五色岳（正面の稜線の中央の盛り上がり）を目指す。道は一度下り、登り返す。



忠別岳を振り返る。



再び登りになる。中央が五色岳。



例の忠別岳避難小屋。森に囲まれている。縦走路から離れているのを幸いに、近寄らずにさっさと通り過ぎる。



五色岳の登りは、背丈を超えるナナカマドやハイマツの藪気味の林の中を進む。



避難小屋への分岐。ここから小屋まで 15 分。休まずに通り返る。



五色岳。ピッチを上げて進んだので、分岐から 1 時間の予定を 30 分ほどで登ってきてしまった。

トムラウシ山がずいぶんと近くなった。東に目をやると五色ヶ原の向こうに、沼ノ原と大沼が望まれる。南北に走っていた縦走路は、ここから西に折れて化雲岳に向かうが、私たちは敢えて一度縦走路から離れ、東の沼ノ原に向かった。沼ノ原は多くの沼が点在する大雪一の高層湿原で、一番大きい大沼では、トムラウシ山が逆さに映るので有名。この湿原と逆さトムラウシをどうしても見たくて、1日余分にとって寄り道をすることにしていた。

大沼を正面に見ながら、五色ヶ原を緩やかに下って行く。素晴らしい景色だったが、時間が遅いのでペースを上げる。それでも、景色のよさについつい足が止まり、写真を撮りまくってしまう。五色ヶ原越しに見るトムラウシ山、五色ヶ原と沼ノ原、その向こうにニペソツ山と石狩岳、遠くには日高山脈・・・。

しばらく下って行くと、湿原とハイマツの林を交互に進むようになる。ここもチングルマが多く、7月にぜひ来てみたいところ。

やがて小さな沢になり、沢沿いに進む。台地状の五色ヶ原の縁に来たところで、4時になったので気象情報を聞いて天気図をつける。台風が近づいてきているようだ。7月の事故のこともあり、少し不安な気持ちになる。

急斜面を下り、「五色の水」と呼ばれる水場に着いた。水をたっぷり汲み、先を進むが、そこからは平坦な道で、程なく沼ノ原の湿原に入った。沼の散在する湿原を進み、目的地の大沼に到着。時刻は5時半になっていた。



トムラウシ山が近くなった。



五色岳山頂から東の眺め。手前に広がる湿原は、五色ヶ原。遠くに、沼ノ原の大沼が見える（2つ見える池の遠くの池。手前は五色沼）。



後ろを振り返る。左は旭岳、右は忠別岳。



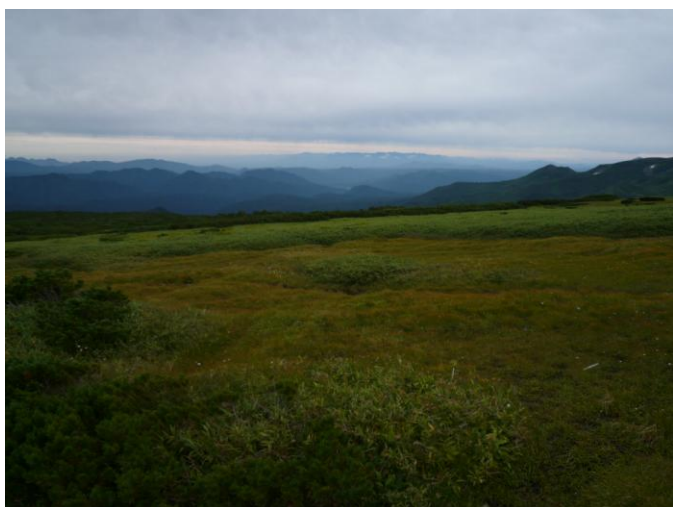
五色ヶ原から眺めるトムラウシ山。



正面に沼ノ原の大沼（遠くの方の沼）を見ながら五色ヶ原を緩やかに下って行く。遠くの山はニペソツ山。景色を楽しみながらのんびり歩きたかったが、時間が遅かったのでペースを上げて歩いた。



ウサギがいるのですが、おわかりですか？見つけてみてください。



右手には日高の山々。



五色ヶ原には小さな沼が点在する。



湿原の中は木道が整備されている。



沢沿いの道になる。



ここは五色ヶ原の縁。左に下ると沼ノ原の湿原。ここで4時になったので、ラジオで気象情報を聞いて天気図をつけた。



沼ノ原を見下ろす。



下りきったところに「五色の水」という水場がある。



目的地の大沼。





沼ノ原に入った。



向こうの山は石狩岳。





大沼に到着。



テントサイトは向こう岸。



トムラウシ山。



期待通りの湖面に映る逆さトムラウシに感激。幸いなことに風がなく、湖面はまるで鏡のようだった。景色を楽しみながら急いでテントを張り、クマを少し気にしながら夕食の支度をする。ガスストーブを出して火をかけようとしたら、空が焼けてきた。2人とも手が止まり、ボケっと眺めていると、見る見るうちに西の空が赤くなり、息を飲むような夕焼けとなった。クマのことなどすっかり頭から飛んでしまい、2人とも静寂の中で夕焼けに見とれて立ち尽くしていた。



記念撮影。



時間が遅かったし、腹も減っていたので、急いでテントを張り、食事の支度にとりかかろうとしたが・・・



